
機動警ら隊の日常

SHIRANE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動警ら隊の日常

【Nコード】

N2457S

【作者名】

SHIRANE

【あらすじ】

大阪府警第2機動警ら隊は、住之江公園駅のすぐ近くに所在していた。

昨年配属された、才原 信 巡查。

パートナーの、吉原 保 巡查部長。

2人が乗車するパトカーが、今日も大阪の街を警らする・・・。

警察無線に力を入れて、臨場感が少しでも出るように考えています。至らぬ点多々あるとは存じますが、是非覗いてほしいと思

います。

第1話 雨の降る郵便局

第1話 「雨の降る郵便局」

? 2011年2月24日 7時50分 ?

? 大阪市住之江区新北島1丁目 第二方面本部 ?

住之江警察署のすぐ近くに、第二方面本部はあった。

大阪府警察では、府を4のブロックに分けて管轄している。

その1つである第二方面本部は、大正・天王寺・浪速・東成・生野・阿倍野

住之江・住吉・東住吉・平野・西成を管轄する本部がここにある。

ここには、機動警ら隊（自動車警ら隊）の本部もおかれている。

「2月になったら暖かくなると思ってたのに・・・。」

一人呟いているのは、才原 信 巡査である。

昨年、住之江警察署地域課から機動警ら隊に配属されたばかりだ。

才原は乗ってきたバイクを駐輪所に停めると、通用口から中に入った。

? 同日 7時53分 ?

? 第二方面本部2階 機動警ら隊分駐所 ?

才原は階段を2階まで昇ると、廊下の一番奥の部屋の戸を開けた。

「おはようございます!!」

挨拶をすると、室内にいた先輩たちもそれぞれに声を掛ける。

「おう才原!! おはよう。」

声を掛けて来たのは、同じパトカーに乗車している 吉原 保 巡査部長だ。

「おはようございます。今日も、宜しくお願いします。」

才原が頭を下げると、照れくさいのか止めると言っって何処かに行っ

てしまった。

才原も自分の机に荷物を置くと、ロッカー室へと向かった。部屋の隣のロッカー室には、数人の先輩がいた。

挨拶を交わしながら、自分のロッカーの鍵を開錠する。

「カチャ」

鍵を回すと、心地良い感触が手を伝う。

ロッカーを開けると、冬用の制服が入っている。

制服に着替えると、専用の棚の鍵を開けて装備品を取り出す。

拳銃・警棒・手錠・警笛を装備すると、部屋に戻った。

部屋に戻ると、ちょうど朝礼が始まる所であった。

「総員起立、礼、着席。おはようございます!!!」

大隊長の声に合わせて、僕たちもそれぞれ挨拶をする。

「今日の朝礼ですが、予報では昼前から雨が降るそうです。

各自運転には十分に注意し、警らに当たって下さい。

また、車両の整備を怠らぬように・・・。」

大隊長からの朝礼が終わると、車庫へと向かった。

? 第二方面本部地下1階 車庫 ?

パトカーに乗るとまず、ガソリンの量をチェックした。

基本は、前に乗車した隊員が満タンにしておくのが通例だ。

「ガソリン・・・よし、大丈夫だな。」

次にエンジンを掛けて、車両に異常がないか確かめる。

「エンジンオイル・エンジン・・・異常なし、と。」

もちろん、サイレンアンプに赤色灯も確認する。

「ウーウー・・・。」

前面・散光式警光灯の点灯を確認すれば点検は終了だ。

「赤色灯関係・・・よし。」

点検を終えると、積載物の確認に入った。

カラーコーンに赤色誘導灯、さすまた等も積載物の一つだ。

「積載物確認よし。」

全ての確認が終わった事を再度確認して、パトカーに乗り込む。乗り込んだ際に、パトカーの無線番号なども一緒に確認する。今日は、吉原さんが運転席でハンドルを握ってくれるそうだ。助手席でもう一度、フットサイレンが鳴るか確認するとシートベルトを締めた。

「吉原さん、点検終わりました。出庫しますか？」

「そうだな・・・よし警らに出よう。」

吉原さんもパトカーに乗り込み、エンジンを掛ける。

パトカーは、アクセルを踏み込むとゆっくりと進み始めた。数台のパトカーに続いて車庫から出庫する。

パトカーが29号線に出ると、無線で本部に連絡を取った。

「機動203から大阪本部。警らにつき、無線開局どうぞ。」

「大阪本部から機動203へ。無線開局了解、以上大阪本部。」

無線の開局を確認すると、29号線を進みながら警らルートを確認する。

「今日は雨になるらしいですけど、事件とかなければいいんですけどね。」

「警察は暇であればある程、いい仕事なんだけどな・・・。」

話を交わしていると、早速無線指令が入った。

「大阪本部から各局。」

住之江PS管内、強盗事案が発生。現場は、北加賀谷1丁目郵便局。

郵便局員からの110番通報、発生時刻 8時20分。

近い移動は、現場に急行し被疑者の人着等の解析を急げ。以上、大阪本部。」

丁度そちらに向いていたパトカーは急行する事にした。

「機動203から大阪本部。住之江PS管内強盗事案従事どうぞ。」

赤色灯を点灯させ、サイレンのスイッチを入れた。

「ウーウー・・・。」

「パトカー赤信号通過します。各車止まって待って下さい!!」
赤信号に進入した時、本部からの返信が返ってきた。

「大阪本部から機動203。現着次第、本部への一報を願う。以上、大阪本部。」

「機動203、了解。以上、機動203。」
サイレンを鳴らし走るパトカーを、数滴の雨が車体を打った。

「ちっ、もう雨が降ってきやがったか・・・」

ワイパーのスイッチを入れると、それに応じてワイパーが作動し始めた。

雨は、段々とひどくなっていた・・・。

現場へは、数分程度で到着する事が出来た。

「機動203から大阪本部。現着、車両離れます。」
無線で本部に一報を入れて、車外に出た。

現場にはまだ警察官が現着しておらず、ひとまず郵便局内へ入って行った。

郵便局内は、閑散としていた。まあ、仕方のない事ではあるが・・・。

吉原と才原は、局内に入ると警察手帳を提示して声をかけた。
声をかけると、奥の方から郵便局長らしき人が出て来た。

「ご苦労様です。私が局長の、小谷と申します。」

「早速ですが、犯人の人相や衣服などをお話しいただけますか?」

吉原がテンポよく、小谷に聞き込みを始める。

「はい、人相は20代位の若い男性2人という事しかわかりません。
衣服は、2人ともが黒ジャンパーで・・・

1人が作業服、もう1人が緑のジーパン・・・だったと思います。」

吉原がそうですか、と相槌を打ちながら才原にパトカーの方を指差した。

吉原が指差した意味を理解した才原は、パトカーへと戻った。

「機動203から大阪本部へ。住之江PS強盗事案の続報。」

被疑者は、20代位の若い男性2人組。両方共に、黒ジャンパーを着用。

1人にあつては下、作業服。もう1人は緑のジーパンを着用していた模様。」

無線に一通り話終わった後に、吉原が戻ってきた。

「大阪本部から機動203。被疑者の凶器等の所持はありますか、どうぞ。」

「才原、拳銃らしきものに、刃渡り30cmぐらいのナイフだそうだ。」

吉原さんが聞き込んで来てくれたらしい。

「機動203から大阪本部。被疑者にあつては、拳銃らしきものと刃渡り30cm

程のナイフを所持していた模様。」

数分ほどして、緊急を知らせる無線コールが鳴り響いた。

「至急至急、大阪本部から住之江PS管内移動中の各移動。」

8時20分発生の強盗事案に於いて、現時刻を持って緊急配備を発令する。

発令範囲は、住之江PS管内全域と第2機動警ら隊。

被疑者は、黒のジャンパーに作業服と緑のジーパンを着用。

なお、拳銃のようなものとナイフの所持が確認されている。

各員とも、防刃資機材等を有効的に活用し、受傷防止に十分留意されたい。

以上、大阪本部。」

先ほどの事件の緊急配備を知らせる無線であつた。

雨にぬれた体をタオルで軽く拭くと、シートベルトをつけ直した。

「よし、付近を警らしてみるか・・・見つかるといいな。」

「そうですね・・・」

吉原はウィンカーを出して、路肩からゆっくりと動き始めた。

車両は、北加賀屋小学校近辺を搜索することにした。

雨の激しさは、一向に衰える気配を見せない。

? 同日 9時20分 玉出中学校周辺 ?

どんどんと北東へ搜索をしている時であった。

無線のコール音が、車内に響いた。

「大阪本部から、住之江PS管内強盗事案従事中の各移動局へ。

現在、住之江管内発生 of 強盗事案で緊急配備を発令中であつたが、

現時、9時20分を持って住之江PS管内全域の緊急配備を解除する。

なお、各移動にあつては通常警らに戻りたい。以上、大阪本部。

「

発生から1時間がたつた今では、すぐの確保は無理と踏んだのだらう。

警察力も無限にあるわけではない。

こう言つた事もあるのだが、やるせない気持ちは隠せない。

「機動203から大阪本部。無線指令了解、通常警らに戻る。」

才原が本部へ一報を入れると、吉原が一度停車した。

「はあく捕まえられんかつたか・・・悔しいな。」

「そうですね・・・」

気分を入れ替えると、その周辺の警らを行い午前の巡回を終え、帰署した。

雨は、相変わらず降り続いたままであつた・・・。

警ら報告書(午前)

2011年2月24日(木)

乗車車両番号/車両所属

203

第2動警ら隊

乗務員

才原 信

吉原 保

本部出庫時刻 / 本部帰署時刻

8時17分

10時00

詳細報告

出庫後の8時21分頃、本部からの無線を傍受。

現場から近かったこともあり、緊急走行で現場へ急行。

8時26分頃、現場の北加賀屋1丁目郵便局へ現着。

聞き込み後、その後現着した住之江P.S署員に引き継

ぎ、

本部の緊急配備に従事する。

9時20分頃、玉出中学校付近警ら中に緊急配備解除。

本部指示に従事し、通常警らへ移行。

その周辺を警ら中に、信号を無視した1台を確保。

10時00分、帰署。

その他備考 とくになし。

第2機動警ら隊 才原 信 吉原 保

第1話 雨の降る郵便局（後書き）

読んでいただき、ありがとうございます。

自分の中では、あまり書くことのないことで迷走気味であったかと思えます。

正直、自分ではどんな作品がよく分かりません。

なので、感想や意見を書き込んでいただけるとものすごく助かります。

至らない点多々あるとは思いますが、これからもお付き合いください。

第2話 「コスモタワー」

第2話 「コスモタワー」

? 2011年2月25日 20時00分 ?

? 住之江区南港東5丁目 南港大橋 ?

今日はいつもと違う区域の警らを担当している時であった。

才原と吉原は、いつもの203号に乗りし南港方面へ向かっていた。違う乗務員が担当している区域だが、今日は両方とも体調を崩したらしい。

「吉原さん、僕こっちの方はあんまり詳しくないんですけど・・・」

「大丈夫だよ。こっちは一本道が割かし多いからな。」

「そうですか・・・」

いつもと違う景色に目を凝らしていると、無線機からコール音が聞こえた。

「大阪本部から住之江PS管内移動中の各車両へ。」

府咲洲庁舎内に於いて、騒いでいる男性がいる旨の110番通報。110番受理番号1520、受理時刻20時02分。

近い移動局にあつては、応答願いたい。以上大阪本部。」

咲洲庁舎は、この前府の機能が一部移転されたばかりの施設である。

「吉原さん、咲洲庁舎はここから近かつたですよね?」

「そうだな・・・サイレンを鳴らせば5分つてとこかな。」

「じゃあ、本部に一報入れますね。」

吉原が無言で頷くと、無線機に手を伸ばした。

「機動203から大阪本部。現在、南港大橋。現場へ急行する。」
サイレンのスイッチを入れると、アンプからサイレンが鳴り出す。

大橋を下りかけた所で、本部から返答が返ってきた。

「大阪本部了解、至急現場に急行されたい。以上、大阪本部。」
本部からの返答があつた所で、パトカーはスピードを上げた。

夜の20時を少し回ったこの時刻は、車通りがとても少なかった。咲洲庁舎には吉原の見立て通り、5分程で到着した。

「機動203から大阪本部。現着、車両離れます。」
現着の一報を入れて、車両を降りて庁舎内へと向かった。

騒いでいると通報があったのは、水道局のある10階であった。

エレベーターで10階に到着すると、男性と職員らしき人が絡んでいた。

才原と吉原は、慌てて引き離しにかかる。

「何をしているんですか!!」

才原が声をかけると、「ああ!？」と言ってこちら側に男性が向き直った。

男性が、「お前誰なんじゃ!!」と声を張り上げて怒鳴ってきた。

才原と吉原は、胸ポケットから警察手帳を提示した。

「大阪府警の者です。一体何があったんですか？」

才原が落ち着かせて改めて聞く。

するとさつきとは違う男性が話し出した。

「それが・・・水道料金の決め方が理不尽だと申されておりまして

」

どうやら、水道料のクレームでも言いに来たらしい。

それに、男性はかなり泥酔しているように見受けられた。

才原が、その男性にある提案をした。

「今日はもう遅いですし、また改めていらっしゃったら如何ですか？」

「?」
「やんわりと提案をするが、男性は興奮していて耳を貸そうとしない。それどころか・・・」

「お前に用は無いんじゃない! さつさと帰れや、この税金泥棒が!!」
と言っ

て、才原を思いつきり壁に突き飛ばして、転倒させた。

吉原がこれを見逃すはずもなく、手錠を腰ポケットから取り出した。

「才原、時間を取れ。」

「はい、つつ・・・22時16分です。」

「22時16分、警察官に対する公務執行妨害の現行犯で逮捕する。」

手錠が「ガチャ」という音を出して、男の両手に掛けられる。

「才原、大丈夫か？」

吉原がそう言つて、手を差しだした。

「まあ、大丈夫って言つても痛いですけどね・・・。」

才原は立ち上がると、その男を吉原と二人でパトカーに連行した。

パトカーにつくと吉原が男を押さえておき、その間に本部へ一報を入れる。

「機動203から大阪本部。」

口の中を切つたらしく、血が唾液に混じる。

「大阪本部です、機動203どうぞ。」

「受理1520の咲洲庁舎の案件において、男性1名に帰宅を促したところ、

暴行を受けた為、20時16分公務執行妨害で男性を現行犯逮捕した。

被疑者にあつては、少し泥酔しており事情聴取は困難とみられる。

「少しして、本部からの指示が無線から流れる。」

「大阪本部了解。被疑者にあつては、最寄りの住之江P.Sにて留置する。」

従つて、被疑者を住之江P.Sに連行されたい。以上、大阪本部。「機動203了解、住之江P.Sに連行する。以上、機動203。」

交信が終わると、車外に出て男性をパトカーに乗せる。

才原は後部座席に男性と座り、吉原は運転席に座った。

パトカーは、赤色灯だけをつけ住之江署へと向かった。

警察署に近づいた所で、男性の意識がはつきりとしてきた。

「ここは……」

「パトカーの中ですよ。」

男性の言葉に才原が優しく答える。

男性は少しして、両手に手錠が掛けられている事に気付いた。

「お巡りさん、僕なんかしたんでしょっか？」

「あなたはね、注意したら僕を壁に思いっきり突き飛ばしたんですよ……。」

男性は自分の犯した罪にやっと気づいたようだ。

「まあ、詳しい話は警察署についてからじっくりと話して下さい。」

その言葉に、男性はうなだれた。

数分すると、住之江警察署に到着した。

通用口には連絡を受けた数名の警察官が待機していた。

「それでは、宜しく願います。」

吉原がそう言つて、手錠を警察署の物と交換する

助手席に座り直すと、パトカーは再び夜の町を警らし始めた。

？ 同日 22時54分 ？

？ 第二方面本部地下車庫 ？

パトカーをバックで指定の所に駐車すると、点検を始めた。

吉原は、一足先にあがってもらったので1人での点検だ。

空気圧やガソリン、赤色灯などを点検し終わると報告書に記入する。

「以上は……とくにないな。よし、判子を押して……と。」

報告書をしまうと、パトカーに鍵をかけて上へと上がる。

途中ですれ違った先輩に挨拶をすることも忘れてはならない。

書類などを提出すると、ひとまず仮眠室へ入った。

「今日は、色々あったな。」

一言つぶやくと、才原は夢の世界へと落ちて行った……。

警ら報告書（夜警）

2011年2月25日（金）

乗車車両番号/車両所属 203 第2動警ら隊

乗務員 才原 信 吉原 保

本部出庫時刻/本部帰署時刻 19時24分 22時54分

詳細報告

出庫後南港方面を警ら中、本部からの無線を傍受。

現場から近かったこともあり、緊急走行で現場へ急行。
20時05分頃、大阪府咲洲庁舎へ現着。

10階の市水道局へと到着すると、男性2名が揉み合
っていた為、

乗務員で引き離す。

その後男性に帰宅を促すと、才原が壁へ押し飛ばされ
る。

上記事由により、20時16分公務執行妨害で現行犯

逮捕。

本部からの指令により、所轄の住之江警察署へ男性を

移送。

引き渡し後、再び南港地区の警らに従事する。

南港ポータウン前交差点で、信号無視の車両1台を

検挙。

該当事由は、赤信号を直進したことによるためである。
その後、22時54分車庫に入庫。

その他備考 とくになし。

第2機動警ら隊 才原 信 吉原 保

第2話 「コスモタワー」 (後書き)

読んでいただきありがとうございました。

次回も投稿しましたら、また読んでください。

お願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2457s/>

機動警ら隊の日常

2011年4月9日21時06分発行